



## 慶應義塾大学ビジネス・スクール

# 株式会社ミクシィ (A)

5

2021年4月2日の日経速報ニュースアーカイブで『ミクシィ、3週間ぶり安値 業績成長に停滞感』というタイトルの記事が掲載された<sup>[1]</sup>。同記事では業績成長の鈍化懸念による上値の重さが指摘されており、2017年5月頃の7,000円を越える勢いと比較して、2021年に入ってからはその半分にも満たない3,000円を越えた日は1日（2021年3月18日、終値基準）しかなく、記事が出た日の終値は2,753円だった。2021年4月1日の米市場ではナスダック総合株価指数が2%上昇し、日本でもハイテク関連株が相場全体を押し上げる中での逆行安であった。2021年3月22日には英国風パブを展開するハブ社との資本業務提携といった新機軸の立ち上げを発表をしていた時期であったが、好意的な反応は市場では見られなかった。記事内では松井証券のアナリストも「新規事業も収益貢献が見えてくるまでは反転の材料にはなりにくい」と指摘する。

10

15

## ミクシィの概要

この記事に登場した株式会社ミクシィ（以下、ミクシィ）とは、笠原健治氏が1997年に東京大学在学中に立ち上げた転職支援サービスである“FindJob!”を発端とするITサービス企業である<sup>[2]</sup>が、2021年9月現在の同社HPを見ると、転職以外のサービスを多く行っている<sup>[3]</sup>。

20

実際にソーシャルネットワークサービス（Social Networking Service、SNSとも略され、登録された利用者同士が交流できるWebサービス）“mixi”が2004年2月に立ち上げられて以降、公表されているIR関連資料<sup>[4]</sup>から確認出来るだけでも40以上の事業が立ち上げられており、そのうち25個は2021年9月時点でも継続的にサービスが提供されている。この事業群の中には、例えば2013年11月にリリースされた、前年対比で売上高を10倍に押し上げたスマートフォン向けゲームである“モンスタースト

25

このケースは、クラス討論の基礎資料として慶應義塾大学ビジネス・スクール清水勝彦教授の監修のもとM43松元拓也、村上勝志が作成したものであり、経営上の適切もしくは不適な状況を例示しようとするものではない。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8526神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話045-564-2444、e-mail:case@kbs.keio.ac.jp）。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機会的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

30

Copyright© 清水勝彦、松元拓也、村上勝志（2021年11月作成）